

## 福島県指定重要文化財（歴史資料）

さくまようけんわさんかんけいしりょう  
佐久間庸軒和算関係資料



佐久間庸軒は、文政2（1819）年、三春藩領石森村（現田村市船引町石森）の百姓杵之丞の二男として生まれ、長じて後、名を纘、号を庸軒といたしました。天保5（1838）年、家督を嗣ぎ、三春藩より在郷給人（給地3石）の待遇を受けました。

和算を最初 父 杵之丞（最上流 渡辺一の門弟）について学び、次いで渡辺一について学びました。また測量術を最上流 高橋吉右衛門について修めました。安政5（1858）年には長崎にまで和算修行に赴くなど、最上流に留まらず、他流諸派と交流し、研鑽を究めました。さらには、洋算、航海術、天文についても研修を進めました。

万延元（1860）年、三春藩士に登用され、藩校明德堂教授となり、明治元（1868）年には、三春藩地図取調方、明治2（1869）年には封計局支配となり、明治8（1875）年には、大蔵省地理寮の命を受けて上京し、地租改正事務局の設置などに関わり、帰県後は、磐前県出仕となり福島県や宮城県に度々出張しました。

また弘化元（1844）年からは、自宅において子弟の指導に当たり、明治9（1876）年に県職を辞して以降は、庸軒塾において昼夜を別たず和算と洋算を教授し、2000人以上の後輩を輩出しました。

このように学術上、行政上からも近代学校草創期の算術教育においても大きい役割を担った佐久間庸軒とその門人たちが遺した資料は、質量ともに県内外に比類ないものとして、福島県の重要文化財に指定されました。